

魅力ある街並みづくりへの提言

波佐見町

街並み景観診断調査報告書
1986.3

長崎県

ぐ、この町の母なる川として蘇生せしめるような策
が必要されよう。

幸い、河川改修によって生じた堤防上は、現在のと
ころ殆どが放置されたままになっているので、これを
サイクリングやジョギング、散策のための道として整
備することは、十分可能と思われる。徒歩や自転車に
よる通学ルートとしてはむしろこのこと、将来的にはそ
れを利用した観光サイクリングや史跡・名所巡り、オ
リエンテeringやマラソン大会なども考えられると
ころであろう。また各集落の近くでは、かつての竹林
や桜並木のイメージを再現したような植栽や、橋詰や
堰や河川敷等を利用したポケット・パークとか親水空
間の設置、鯉の放流なども、計画されてよいだろう。
次節に残存分布の調査結果を示す石造又は煉瓦造の眼鏡
橋群は、そのようにして整備された河川景観に彩りを添
える要素として、一段とその重要性が再認識されるこ
とも期待されようか。

□文化施設、公園、周辺の自然環境など

郷単位に設置される各地区のコミュニティ施設につ
いては、公民館などの集会施設と農村公園などの運動
施設として、ほぼ数量的には充足された状況にある。

一方、町全体の公共施設としては、近年、勤労福祉
会館、農村環境改善センター、陶芸の館、勤労者体育
センター等を相次いで完成させてきたし、総合的な運
動施設としての鴻ノ巣公園の整備も順調に進められ
きた。

しかしアンケート調査の結果にも現われていたよう
に、現状は未だ住民の多様化した文化的諸要求に十分
応えているとは言いがたいであろう。特にスポーツ施設
の拡充傾向に対し、文化ホール、図書館、歴史資料館
といった純然たる文化施設の立ち遅れが目立ち、これ
らの早急な充足が望まれる。また街並み景観の視点が
ら既存の施設を点検するならば、

- 公民館などの地区集会施設は、いずれも建築的にそ
のデザインレベルがかなり低いのみならず、せつ
かくの新築でありながら地区の特性やコミュニテイ
の中核としての表現に配慮を欠くこと
- 町全体の公共施設にしても、建築表現の上で特に波

佐見らしさを具現した建物は未だなく、また建築作
品として、あるいは施設内容において広く話題を呼
ぶような建物もないこと
といった不満点が付け加えられなくもない。

それゆえ、これから計画又は実現さるべき文化施設
については、次のような各点が特に留意さるべきだと
考えられる。

- 文化施設については、内容的な充実と共に、その建
物自体が佐見の新しい顔となりうるような質の高
い、又は話題性に富んだデザインがめざされるべき
だし、素材や造形上にもどこか波佐見らしさの表現
を求めたい。当然その立地については、町全体の将
来計画と絡めて十分な配慮がなされるべきであろう。
- 文化ホールについては、町の規模や最近の状況から
して、ありふれた多目的ホールをまた一つつくるよ
りは、むしろ近隣の佐世保市や川棚町とネット・ワ
ークを組んで、たとえば小規模でも音響効果の抜群
な「音楽専用ホール」の建設をめざすといった、ユニ
ークな姿勢が大切であろう。

- 図書館や資料館についても、例えば前者には「黒板
勝美記念室」、後者には「波佐見金山資料室」などを
設けて、町民の日常的な利用に供するのみならず、
町外からの来訪者を誘引するような特色をもたせて、
町の新しい文化拠点としての性格づけを鮮明にすべ
きであろう。

一方、町の周辺部に眼を向けるならば、なお未開発
ながら、自然とふれあい、眺望や景勝を愉しめるよう
な場所が少なくない。とりわけ、①鴻ノ巣公園と三角
形の頂点をなす二ツ岳と八天岳、②金屋溪谷〜鬼木林
道〜中尾・三股の裏山、③野々川ダム〜陣の辻(神
六山)の3箇所は、その景観的ポテンシャルの高さか
らして、自然環境の保全に十分配慮しながら今少し
一トや案内標識、展望・休憩・運動施設等に整備を加
えるならば、郊外型の格好なレクリエーションの場と
して提供することができよう。また、鬼木の棚田や波
佐見川流域の広々とした水田、神六山系一帯の茶畑な
どというのも、単に農作業の場としてだけでなく、こ
れからは町の景観を構成する主要なファクターとして
認識が高められる必要があることは、言うまでもない。

2. 石造及び煉瓦造アーチ橋の残存分布状況

1986年3月現在、町内に残存する眼鏡橋(アーチ橋)は、われわれの調査によれば全部で25基が確認された。小規模なものならば、なお1~2基の見落しがあるかもしれないが、逆に聞取りでは「ついこの間であった」というのが、実際には取り壊されていた場合も若干あった。

分布図(図IV-1)に示すように、その殆どが周辺の支流に架かり、従って規模も概して小さいが、石造以外に、恐らくは煙突か窯の部材を廃物利用したかと思われる煉瓦造のものや、石と煉瓦を併用したものが合計8基と全体の約3分の1を占めるのが、大きな特徴となっている。しかも煉瓦造の場合でも、アーチリングの部分はレンガを1枚ずつ積み上げる近代的な構築技術によらず、切石と同等大のブロック状に固めたものを積み上げるというように、伝統的な石橋の構築技法に従っているのは興味深い。こうした素朴な形式の煉瓦造眼鏡橋というのは、まさに生活の知恵から出たものであるが、全国的にみても他に例を見ない

貴重な存在といえよう。

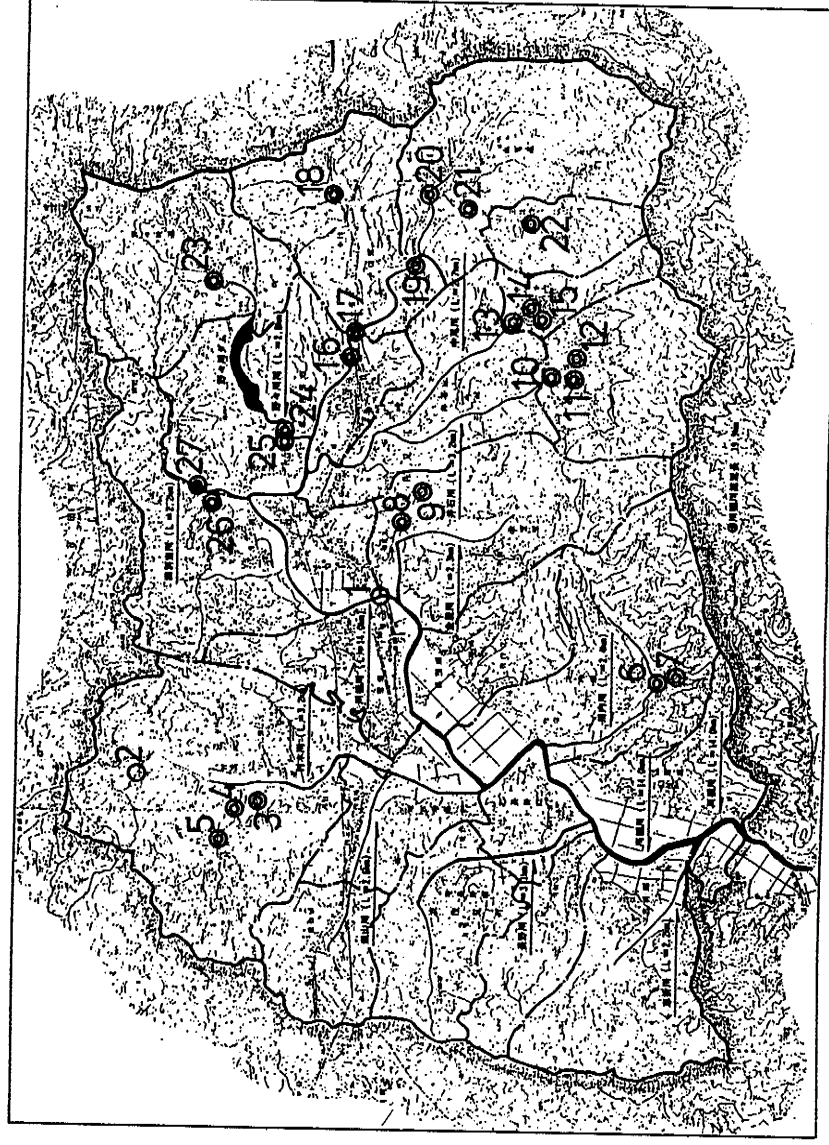
銘板や親柱刻銘によって架設年時の判明するのは、わずかに2基に過ぎないが、他のものもその材質や積み方からみて、いずれも明治末頃から昭和20年代以前のものと推定される。ただ残存なことに、現状ではその過半がコンクリートによる橋面増設や橋面のアスファルト舗装が施されたり、不粋なガード・レールが取り付けられていて、眼鏡橋本来の姿をとどめるのは僅少である。

しかしながら、この眼鏡橋群は、それ自体の魅力に加えて、

- 町内には昭和17年架設の鉄筋コンクリート造3連アーチ橋という大変珍しい宿橋(写真①)があるほか、現在工事中の村木郷の国道35号線陸橋もまた、9連の壮大なアーチ橋として造られていること

- アーチ構造自体は登り窯以来の窯の構造形式でもあったというように、それは本町を特徴づける伝統的なデザイン・モチーフだったこと

これらを考慮するならば、本町の街並み景観の構成



図IV-1 石橋及び煉瓦造眼鏡橋の分布位置

要素としては、実に重要な意義をもつ遺構だといわねばなるまい。よってその保存と修景整備を、ここに強く訴えておきたい。

また、全く同様な意味で、近年の解体後も幸いにしてその部材が保存されている旧・湯無田橋（昭和12年架設）については、それを近くのやきもの公園の一面

に再建することや、皿山集落の修景手法の1つとして、窯元に残る煉瓦の廃材を用いて眼鏡橋を新しく造ること、これらの妥当性も十分首肯されるであろう。

以下には、調査結果の概要を一覧表、分布図、写真及び測図図面によって示す。通し番号は共通である。

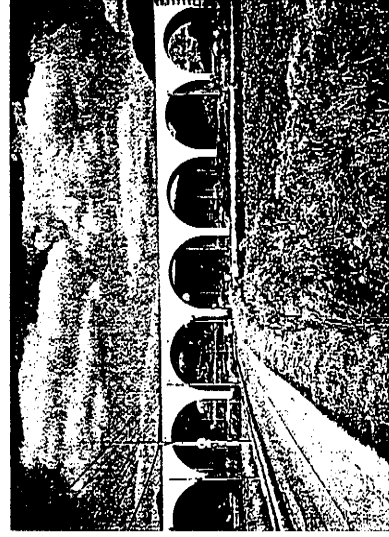
表IV-1. 波佐見町内の現存眼鏡橋一覧

地区(郷)	番号	橋名(所在地)	材質	スパン(m)	幅(m)	橋面状態	特徴	微
宿村木	①	宿橋	RC			G(ガード・レール)付	3連アーチ, 昭和17年架設	
	②	国道35号線陸橋	RC				多連アーチ	
村木	③	(旧村木分校裏手)	S	2.4	—	RC増設	{ 2基並列して増設, 現在通行していません }	
	④	(同上)	S	2.6	5.9	土のまま		
	⑤	(狸山下池下)	S	1.85	3.0	RC増設		
川内	⑥	(川内川上流部)	S	6.2	3.1	RC増設, G付		下面の目地はモルタル補修
	⑦	(同上)	S	3.6	2.85	土のまま		野の道にあって美しい
金屋	⑧	(金屋下集会所前)	S	4.85	3.0	RC増設, G付		上流側に石造部分増設
	⑨	(原田池下)	B+S	2.75	3.4	土のまま		
鬼木	⑩	(バス停鬼木前)	S	2.8	2.8	モルタル塗		
	⑪	(鬼木改善センター裏)	S	2.05	2.5	土のまま		小規模だが仕事丁寧
	⑫	(観音堂下)	S+B	3.2	3.7	RC増設		上流側: 煉瓦, 下流側: 石
中尾	⑬	(集落入口)	B	3.6	4.7	コンクリート嵩上げ		
	⑭	(集落内)	S+B	4.5	3.5	RC増設, G付		一部煉瓦混用
	⑮	(集落内)	B	1.5	2.0	RC増設		規模最小
井石	⑯	籠原橋	B	8.7	3.7	G付		規模最大, 壁石・手すりも煉瓦
		(旧金山発電所前)						で丁寧な積み方, 保存状態良好, 明治43年架設か
小梅	⑰	御堂橋	S	8.4	4.45	G付		{ 大正2年架(親柱), 規模大, 壁面も切石使用 }
	⑱	(仏坂池下)	S	3.2	3.7	土のまま		
永尾	⑲	裨ノ尾眼鏡橋	S	4.7	3.75	石の勾欄残る		{ 唯一の2連, 「永尾・三股両郷架設, 明治42年12月竣工」(銘板), 保存状態良好, 町指定文化財 }
	⑳	(永尾集落内)	S	6.0	3.0	土のまま		きれいな切石使用
	㉑	(三股川下流部)	S	7.6	2.75	RC増設, G付		
三股	㉒	(集落内)	S	3.9	3.05	RC増設		
	㉓	(野々川ダム上)	S	2.5	2.3	RC増設		
湯無田	㉔	宮ノ前橋	S+B	3.7	—	RC増設		外周りは石造, 昭和4年架か
	㉕	熊野神社門前橋	S	3.7	1.6	石材のみ		{ 2本の石材を小口でつなぐ横列組積法, 明治38年架か }
	㉖	(田別当)	S+B	4.0	2.45	土のまま		一部煉瓦露出
	㉗	(田別当)	S	4.45	2.25	RC増設, G付		下部石造, 上部煉瓦造

(材質) RC: 鉄筋コンクリート, S: 石造, B: 煉瓦造



① 宿橋 (宿郷)



② 国道35号線の陸橋 (村木郷)



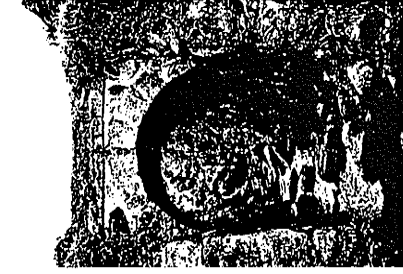
③ 村木分校裏手の石橋



⑥ 川内郷の石橋



⑨ 金屋郷・原田池下の橋



⑩ 鬼木改善センター裏の石橋



⑦ 川内川上流部の石橋



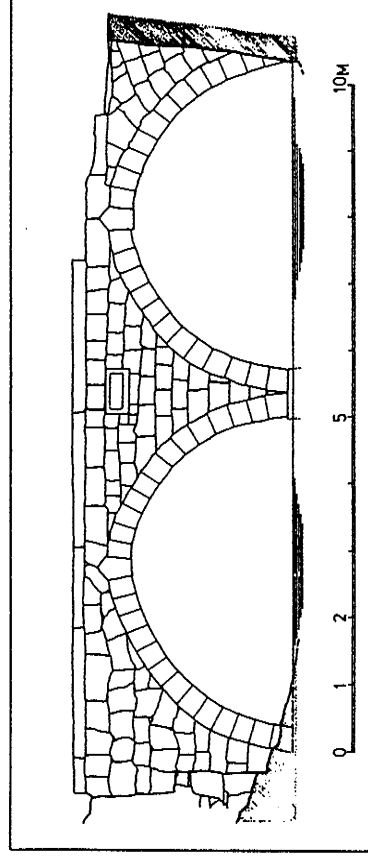
⑧ 金屋下集所前の石橋



⑩ バス停「鬼木」前の石橋



⑭ 田別当の石橋



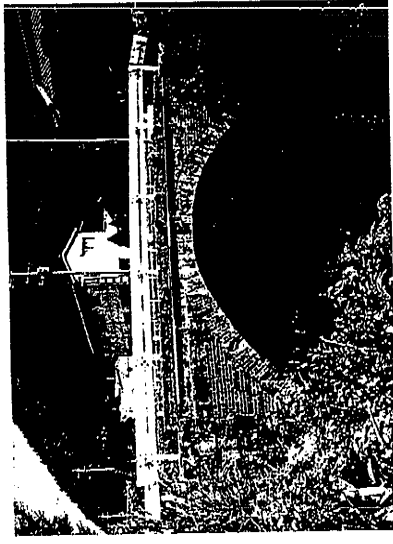
④⑤⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑

は写真省略

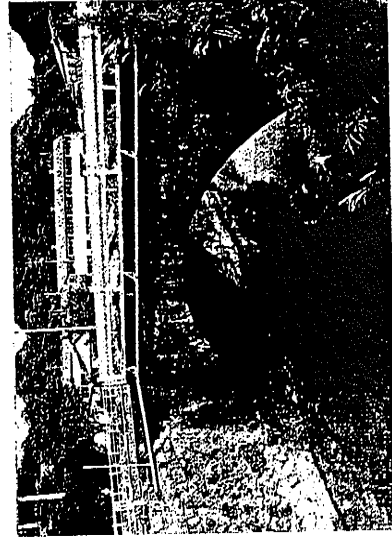
図IV-2 稗ノ尾眼鏡橋実測立面図 (上流側)



⑬ 中尾集落入口の煉瓦造アーチ橋



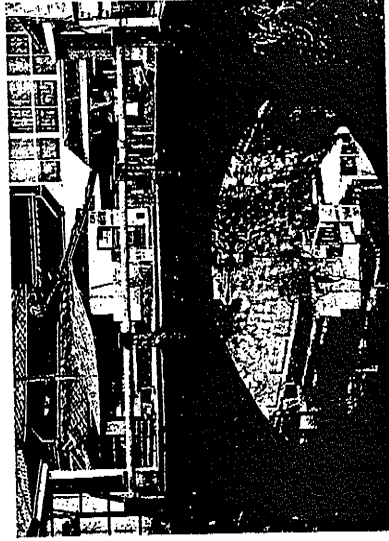
⑭ 旧金山発電所前の龍原橋 (井石郷)



⑰ 御堂橋 (小樽郷)



⑱ 稗ノ尾眼鏡橋 (水尾郷)



⑳ 水尾集落内の石橋



㉑ 三股川下流部の石橋 (水尾郷)



㉒ 宮ノ前橋 (背後)と㉓熊野神社門前橋 (湯無田郷)



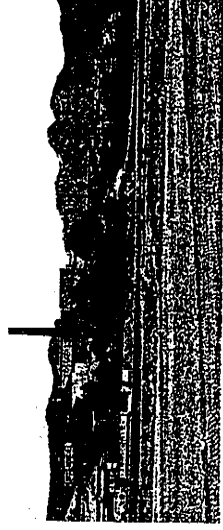
㉔ 田別当の眼鏡橋 (湯無田郷)

3. 煉瓦造煙突の分布状況

町内に現存する煉瓦造煙突についての調査結果を、一覧表、分布図及び写真によって示す。

景観的にみて5m級未満のものはあまり目立たず、したがって見逃す恐れも強いので調査対象から除外した。高さの測定は、外周に取り付けられた鉄製の固定枠の間隔や隣接する建物の軒高等を目安とし、部分的に煉瓦の枚数を数えることで捕った。ただ、いくつかにについては地盤面の高さが確認しえなかつたものもある。この場合には50cm前後の誤差が生じ、ランク付けに多少の変動が生じる可能性もある。加えて、なお基数の見落としがあるだろうこともお断りしておきたい。

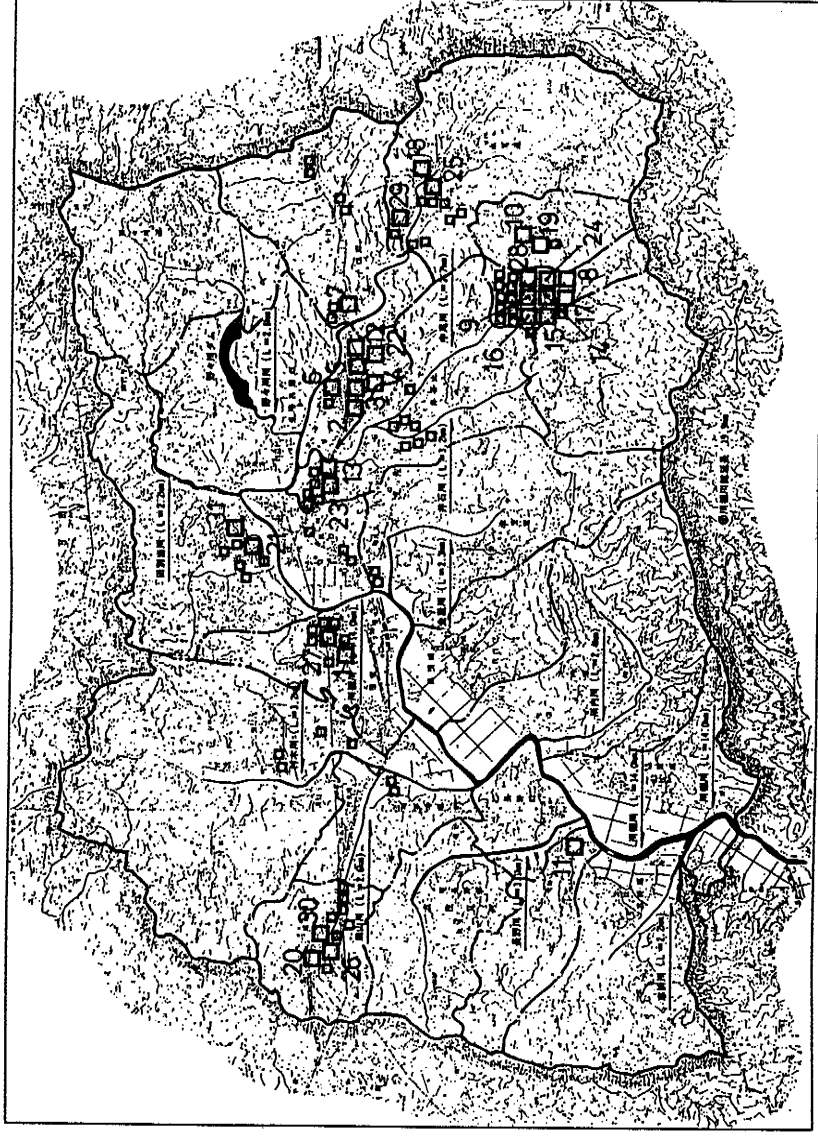
一覧表では10m級以上についてのみ説明を加え、写真の方はその中から代表的なものを選んで示した。ただし、通し番号は共通である。



□ 宿郷・豊菜の煙突 (17m級)



□ 中尾郷・文斎の煙突 (17m級)



図IV-3 煉瓦造煙突の分布状況 (□：高さ10m以上、○6~10m)